

平成 25 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	駿河台大学	実施日	H25. 7/13、8/27、9/3、9/10、9/18、12/7						
代表者	川村 正幸	活動場所	入間川						
タイトル	外来魚駆除！入間川環境保全プロジェクト								
活動目的	外来種の侵入とその問題点について、学生が駆除という実体験することにより、身近な地域から世界的視野で環境問題をとらえるきっかけとし、また地域の環境保全の必要性を考えるきっかけとする。								
活動内容	<p>河川生態系の学習を行い、基礎的な知識の定着を図った上で、入間川での外来魚駆除を行う。駆除作業は4回実施し、現場で駆除を行っている入間漁協の指示に従いつつ、刺網、地引網、投網を使用して捕獲・駆除を行った。また、河川環境改善のための作業や、笹ぶせの設置を行った。捕獲した外来魚は廃棄処分ではなく、調理して食し、命の尊さとその有効利用について学んだ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>川耕し</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>笹ぶせを設置</p> </div> </div>								
活動の成果	<p>学生が地域社会の中で実体験を積むことは大きな意義をもち、また学生が外来種の駆除という環境保全活動をすることで地域貢献をするとともに、本事業の広報を通じて、他の学生や近隣の地域住民の地域環境への関心を向上できた。さらに、参加した学生が「環境教育関東ミーティング 2013」において、本活動の報告をすることができた。</p> <p>また、ブラックバスバーガーを販売するイベントを開催し、環境保全活動と地域振興をアピールすることができた。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>9/3</td> <td>39 匹</td> </tr> <tr> <td>9/10</td> <td>56 匹</td> </tr> <tr> <td>9/18</td> <td>45 匹</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">ブラックバス捕獲数</p> <div style="text-align: right;">  <p>2014. 2. 21 埼玉新聞掲載</p> </div>			9/3	39 匹	9/10	56 匹	9/18	45 匹
9/3	39 匹								
9/10	56 匹								
9/18	45 匹								
今後の改善点	特になし								
最終助成決定額	200,000円								

平成 25 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人はとやま環境フォーラム	実施日	H25.4月～H26.3月
代表者	愛場 謙嗣	活動場所	唐沢川、鳩川、越辺川
タイトル	鳩山町における自然環境調査保全活動		
活動目的	鳩山町の北東部は県立丘陵自然公園区域にあるなど自然豊かな山村部にあるが、公園内に大規模集合住宅が造成され、町内に4つのゴルフ場ができるなど、相次ぐ開発により自然・生活環境が大きく変化してきている。そうした自然・生活環境の変化を多面的にモニタリングすることを通して、多様な生態系の再生により安全な暮らしの確保に向けての基礎データを蓄積する。また、様々な環境保全活動の体験学習・講演会などを通してそれらの意義への理解を深めてもらうことを目的としている。		
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ■残留農薬分析調査 ゴルフ場排水路での農薬分析のための採水 ■エコ図書館の運営 平成22年12月から町営の施設を借りて市民向けの『エコ図書館』を継続して開催 ■広報紙『フォーラム NEWS』発行 地域住民へ配布 	 	
活動の成果	<p>残留農薬分析で殺菌剤成分フェニトロチオン、トオファネートメチル、カフェンストロールの3成分の残留分析を行い、いずれも0.001 mg/l未満だった。しかし、検量線データから微量でも発がん性等が疑われているプロピザミド等の微量流出が認められた。今後、町に対して、月別散布報告の提出改善を各ゴルフ場に要請するよう働きかけていきたい。また、ホトケドジョウの唐沢川流域での生息が引き続き確認され、今後の取組みである生物多様性地域戦略づくりの基礎データの蓄積に貢献した。いずれも広報誌『フォーラム NEWS』に掲載し、地域住民に情報提供を行った。今年度もエコ図書館を継続開館し、同会場で凧づくりを行い、親子凧揚げ大会を開催した。地域住民の環境保全学習と自然環境への関心喚起に貢献した。</p>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	200,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 25 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	上尾の自然を守る教職員の会	実施日	H25. 7/29、H26. 1/5、1/22
代表者	安孫子 繁子	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川敷の植物を使った草木染教室（太平中学校科学部） ・ 公民館での染色教室（会員研修） ・ 七草採り、七草粥 		
活動目的	NPO 法人荒川の自然を守る会と共に、自然塾や観察会の企画運営を行い、多くの親子の自然体験をサポートしてきた。さらに身近な自然の豊かさを PR し、地域の自然を見直してもらうことを目的としている。		
活動内容	<p>■草木染教室（太平中学校科学部・会員） 会員研修として、野草を使った染色することで自然を活かし楽しむ方法の研修を積み、今後自然観察会や市民参加のイベントに繋げ、実施する。</p> <p>■観察会・七草採り・七草粥 上尾市の堤防からの山なみ観察会と七草粥の会も、草木染教室とは違った層の関心と呼ぶイベントとして実施する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
活動の成果	<p>■7/29 草木染（太平中学校科学部）：参加者 21 名 ハンノキプロジェクトに参加している太平中学校科学部の生徒を対象として実施した。桑の根とハンノキの実を使用し、型染めと絞り染めをする。男子中学生にとっても科学的な観点から草木染を考え、さらに母親へのプレゼントを作ることができて感激してくれた。</p> <p>■1/22 草木染（会員研修会）：参加者 18 名 前日までに三ツ又沼ビオトープで染色のための材料を採集し、草木染を実施した。自然を楽しく利用する手段として草木染を行っている。日頃気付かなかった材料を活用できることが分かった。色も講師の先生が驚くほどさまざまな発色が確認できた。多くの人を対象に草木染教室を開催できることを確信した。</p> <p>■1/5 七草観察会・アシ刈り・七草粥：参加者 20 名 七草摘みとアシ刈りでは、現在ではなかなか七草を揃えられない訳や、昔の「野菜」の意味を話すと参加者は大変興味を持ってくれた。七草粥では、大釜 2 個を完食した。寒さの中での七草観察会と七草粥は、日本人の原点に触れる感じがして好評だった。</p> <div style="text-align: right;">  </div>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	200,000円		

平成 25 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人荒川の自然を守る会	実施日	H25.4月～H26.2月
代表者	菅間 宏子	活動場所	荒川 ミツ又沼ビオトープ
タイトル	<ul style="list-style-type: none"> ・セイタカアワダチソウなどの外来種の駆除やアシ刈りの実施 ・ミツ又沼ビオトープの定点調査、自然観察会の実施 ・上尾市平方地区環境フェスティバル等のイベントでの広報活動 		
活動目的	ミツ又沼ビオトープの自然管理作業と多くの方に自然に親しんでもらうための観察会、調査会を開催する。		
活動内容	<p>■観察会・自然管理作業</p> <p>4月～11月は帰化植物退治、12月、1月、2月は希少植物の生育環境を守るためのアシ刈りを実施した。「自然塾ミツ又・遊んで学ぼう」のイベントを3回実施し、リピーターも多く人気のイベントとなっている。</p> <p>■広報活動</p> <p>ミツ又沼ビオトープについて紹介すると共に、身の回りの自然について知ってもらうためにルミネ北千住店においてパネル展示を実施した。荒川の自然の特性と重要性について来場者や全体会にてアピールした。また、会員がそれぞれの場にて広報に努めてくれた。上尾市政55年記念では、ミツ又沼関連のチラシを100部配布し、参加者からも多くの質問が寄せられた。上尾市の環境センターで毎年行われている環境フェスティバルは天候の都合で中止となった。</p>		
活動の成果	<p>参加者にとって観察会と管理作業を同時に実施することで、自然の理解と管理作業の意義を理解してもらうために効果的であった。しかし、自然塾も観察会も屋外での活動のため、天候に左右される点が多く、今年も中止せざるを得なかったものが多かった。リピーターが当日に突然参加することもあり、やりにくい面もあるが、ミツ又沼ビオトープの自然を愛して喜んで参加する親子が多いのでうれしい。最近では、子どもが大きくなって親だけで管理作業に参加してもらえるようになりつつある。</p>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	200,000円		



※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 25 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人荒川流域ネットワーク	実施日	H25.7月～H26.3月
代表者	鈴木 勝行	活動場所	入間川、都幾川
タイトル	親子で体験する地曳網漁と魚類調査		
活動目的	地曳網漁を親子連れで体験してもらうことで、川の漁文化、食文化を子どもたちに体験し、継承してもらう。最終目標は、川の自然が再生され、水量が豊かな清流に溢れるようなアユがいて、その魅力に取りつかれたカワガキがたくさんいるような風景が再生されること。		
活動内容	<p>■親子連れを対象としたイベント</p> <p>都幾川や入間川周辺の地域や荒川下流の親子に参加を呼びかけ、実際に網を曳いてアユ捕りに挑戦してもらった。その他、タモ網で魚を捕ってもらい、子どもたちに紹介することで様々な魚たちがいることを知ってもらった。捕ったアユやウグイは塩焼きにし、オイカワやカワムツやカマツカはフライにして食べてもらった。</p>		
活動の成果	<p>地曳網漁のイベントを開催すると、川で遊んだことのない若い親御さんが子ども連れで参加してくれる。バス釣りの場所として川を見ている若い人たちにも、昔からの漁法に挑戦してもらい、捕った魚を食べるという経験をしてもらうことは極めて重要だと実感している。</p> <p>網に掛かったアユを夢中になって捕まえている子どもたちの姿を、何度も目にすることができた。毎年期待して待っている家族連れもいる。多くの家族連れに参加してもらいたいが、安全のために多くのスタッフが必要で、回数、参加人数は限られてしまう。そのため新聞での広報は、トラブルを避けるため控えている。</p>		
今後の改善点	参加される親御さんからは、子どもたちにもっと捕らせて欲しいという要望もあった。漁法の体験で、養殖のニジマスとは違い、アユは簡単には捕れないが、現代の親子の川遊びに合わせた企画も必要だと考えている。		
最終助成決定額	193,700円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 25 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	比企郡川島町立 出丸小学校	実施日	H25. 5 月～H26. 2 月
代表者	中島 豊吉	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	荒川の自然再生体験		
活動目的	三ツ又沼ビオトープにおいて自然観察を行うとともに、ハンノキの種を採集し、苗を育て、その苗を再びビオトープに植え戻す自然再生の活動を行っている。		
活動内容	<p>「荒川の自然再生」をテーマに、5、6 年生の総合的な学習の時間に授業の一環として取り組んでいる。学校近郊の荒川の河川敷にある三ツ又沼ビオトープにおける動植物の生態系の観察や、ハンノキの苗木の植栽と種の採集などの活動を、あらかわ市民環境サポーターの皆さんの支援を頂きながら定期的に行っている。秋から冬にかけて、ビオトープ周辺で採集したハンノキの種を学校のプランターに植え、芽が出て苗木が育っていくと一本一本を鉢に植え替えて、2 年間育てる。幹が直径 3 cm ほどに育つと、またビオトープ周辺に植え戻す。</p> <p>ハンノキはミドリシジミの繁殖樹であり、ハンノキが増えることによって、ミドリシジミも増え、豊かな自然の生態系が再生していくことを願う活動である。</p>		
活動の成果	<p>現地であるいは教室で、日本生態系協会のサポーターの方の指導を受けたり、資料で調べたりすることで、児童は環境保護に関する知識・理解を体験に基づき確かなものにしてきている。種から 2 年かけて育てたハンノキの苗を三ツ又沼ビオトープに植栽したり、苗木の周辺の下草を刈ったりという自然再生の本格的な活動を児童は体験し、環境保護意識を高めることができた。</p> <p>苗木を育てるには、長い期間や、水やりや植え替え、肥料の管理など多くの手間をかけなければ、植え戻しができるまで大きくすることはできない。しかし、2 年たって苗木の植え戻しができたときの達成感・充実感は格別である。</p>		
今後の改善点	植え戻す苗木の数が少ないのは、発芽率の低さがあるので、発芽前後には特に水分管理等を行う必要を感じている。		
最終助成決定額	92,498 円		



平成 25 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	高麗川ふるさとの会	実施日	H25. 4/1～H26. 3/19 まで
代表者	三浦 輝夫	活動場所	高麗川
タイトル	県下有数の清流である高麗川の良好な水辺環境を保全する活動を推進する		
活動目的	高麗川の良好な水辺環境を将来の子孫に引き継いで行くことを目的とし、行政との協働のなかで様々な活動を推進していく。		
活動内容	<p>主な活動としては、環境、植生、水生生物・水質、野鳥、学童支援、高麗川塾、広報の7文科会を中心として、浅羽ビオトープ周辺の清掃活動（毎月）、植生及び野鳥観察会、小学生を対象とした水の中の生き物調べ、高麗川に関連する写真展、こまがわニュースの発行などを行っている。</p>  		
活動の成果	<p>坂戸市環境学館と共同で学童を対象とした「夏休み生物観察」を行ったほか、荒川上流河川事務所主催の川のクリーン作戦に参加するなど、広い地域交流を通じ河川環境保護の意識啓発を図った。</p> <p>今後も関係団体との更なる連携を図りながら河川環境保全を行うとともに、写真展や野鳥調査、植生観察会などを通じ、より多くの方が親しみを持てるような活動を行って行きたい。</p>  		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	200,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 25 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人エンハンスネイチャー 荒川・江川	実施日	H25.4月～H26.2月 毎月最終金曜日、他20回程度
代表者	小川 早枝子	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	三ツ又沼ビオトープ市民参加型 環境管理活動		
活動目的	荒川とその支流の江川を中心とした生態系保全・再生に関する調査・研究、試験活動や環境管理活動を継続的に行っている。		
活動内容	<p>定期的に毎月三ツ又沼の生物多様性の維持管理のために、下記の活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> *③ゾーン 稀少植物群落の維持管理活動。春から夏は特定外来植物のアレチウリ等を抜き、冬は草刈り・野焼き等の作業を行った。 *ハンノキ広場 外来植物駆除作業を継続的に行った。 *クヌギ広場 外来植物抜き。 *⑦、⑧ゾーン 栽培植物マグワの伐採作業や外来植物抜きを行った。 *三ツ又沼でとり組まれている環境教育へ参画。 		
活動の成果	<p>2001年から三ツ又沼ビオトープの生物多様性維持管理活動を行っているが、年々外来植物抜きや刈り取りに活動の比重がかかってきている。そこで在来植物の種子を播いたり、苗を植えたりすることを提案してきた。少しずつではあるがその方向に向かいつつある。</p>	 	
今後の改善点	<p>在来植物の種子播き、苗の植え付けを行う場合には、すでに繁茂している外来植物を抜きとってからでないと在来植物の定着は難しい。外来植物が一面に生えている場所の外来種を抜きとるのはこれまた労力を必要とする。蝸牛のごとき成果の見えない活動ではあるが忍耐をもって活動を継続することがいま私達に求められている。</p>		
最終助成決定額	197,800円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 25 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	比企の川づくり協議会	実施日	H25. 4 月～H25. 10 月
代表者	渡辺 仁	活動場所	都幾川、槻川
タイトル	都幾川水系 コクチバス撲滅作戦		
活動目的	都幾川では、市民調査結果で 2010 年 はじめてコクチバスの生息が確認された。特定外来生物に指定されているコクチバスの繁殖は、河川環境保全上大きなリスクと考えられることから、埼玉県の水辺再生事業に指定された「槻川栃本堰～相生橋周辺」でのコクチバス成魚、稚魚、産卵床などの繁殖現況調査を実施して、都幾川水系・槻川水系の生物環境保全を目的とする。		
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コクチバス駆除周知について県・市役所、武蔵漁協との協議 ・都幾川鞍掛橋にて、周知ボード製作設置(稲荷橋は、未設置) ・定期的な産卵床探し・稚魚観察・成魚確認(都幾川&槻川) ・刺し網、投網などでの駆除作業(一部、上流館川ダムにて) <p>コクチバスの生育と繁殖は中流～上流域という生態的特徴から武蔵漁協と連携して、昨年同様に上流の止水域(館川ダム)での繁殖確認も行った。水域全体での繁殖・分布をモニタリングできる調査、駆除方法の検討を行いながら、再放流(リリース)禁止の周知広報を行いたい。<但し、バス釣り人を誘引する結果にならぬよう要注意!></p>		
活動の成果	<p>■都幾川鞍掛橋周辺(追加で上流の槻川・館川ダム)での観察・捕獲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4, 5, 6 月と集中的に鞍掛橋周辺の、産卵床と稚魚の確認を行ったが、2～3cm 稚魚をまれに見る程度。7 月に入り、昨年度多く確認された槻川栃本堰下流 100m 左岸で産卵床を確認した。 ・成魚は、7 月になると大小合わせて 30 匹が確認された(槻川)。投網による捕獲を試みるが、ほとんど不漁であった。 ・8 月の 2 日間の投網作業で、稚魚 10cm 級を 7 匹捕獲した。 ・9 月漁協と連携して、総勢 7 名でボート 2 隻使用による刺し網捕獲。コクチ、オオクチバス両方が繁殖しており、42cm 級のコクチバスが捕獲された。 		
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年多く観察された栃本堰下流の産卵床駆除は、相当効果があって今年の稚魚・成魚確認は少なかった。しかし、バス釣り人は減らない。 ・流速の小さい礫河床に産卵しているので、人工産卵床を造成して卵のうちに駆除する方法も効果的と考える。 		
最終助成決定額	86,350 円		

